第23回シンポジウム『進展する情報ネットワークの有効利用とその展望』ルポ

平成2年5月18日，北道道自動車短期大学で第23回シンポジウム「進展する情報ネットワークの有効利用とその展望」が行なわれた．このシンポジウムは，情報ネットワーク研究部会がオーガナイザーとなってその研究成果を紹介する形で行なわれたが，情報ネットワークという，ちょうどタイムリーなトピックでもあったため，約120名の出席者を集めて大変盛大であった．

まず，最初に北海道自動車短期大学の谷口君雄教授の歓迎の辞に続き，情報ネットワーク研究部会主査の勅使河原可海氏が，挨拶をかねて研究部会の紹介と今回のテーマを選んだ理由について述べられた．そのなかで，特に「情報ネットワークが，企業・社会あるいは研究のマネジメントにおよぼすインパクトや，情報ネットワークをマネジメントの道具として利用するための技術等について，技術論から文化論まで幅広い立場で考えていく」ということが強調された．

つづいて，4つの講演が行なわれた．

「戦略的情報ネットワークの展開」大前義次（茨城大）

「バンキングネットワークの動向と展望——たくぎん第3次オンラインの移行を終えて——」八重樫龍夫（北海道拓殖銀行）

「鉄鋼業の情報ネットワーク」杉野　隆（新日鉄情報通信システム）

「北海道大学にける情報ネットワーク（ＨＩＮＥＳ）について」関口恭毅（北海道大学）

なお，予定されていた鳩山由起夫氏（衆議院議員）の「政治におけるネットワーク」は国会予算審議の関係で出席できず中止され非常に残念であった．

大前教授は，今話題の戦略的情報システム（ＳＩＳ）はネットワーク抜きでは戦略的たりえないとし，戦略的情報ネットワークという名称を用いた．これは，企業戦略展開の明確な意図をもって先端情報通信技術を駆使し構築・運用するものであり，ここではトップの役割が非常に重要であるとした．そして，情報ネットワークがあたえる経営・社会へのインパクト，およびネットワーク技術の動向について述べられた．最後に，これからの情報ネットワーク構築に関しての人材育成の重要性について力説された．

八重樫氏は，都市銀行下位行として，いかに第3次オンラインを開発し，その導入に成功したかについて述べられた．そのシステム化の基本路線は，(1) 大型システムの導入・集中化によるＤＰ部門全体の効率化，(2) 最新技術の早期導入による効果の先取りとスキルの向上，(3) メーカーの標準製品の積極的な導入と最大限の活用とであり，この路線により，激変する環境，増大する機能要求，膨大な開発量，投資額の増大に対応したことを示された．さらに将来の課題として個別の仕事に応じたより一層の集中化や分散化，戦略情報システムの構築，エンドユーザー指向の推進をあげられた．

杉野氏は「円高不況」以後の製鉄業におけるリストラクチャリングの中で情報ネットワークが製鉄事業の再編成，新規事業の中核事業として重要な位置を占めていることをまず述べられた．そして現在の新日本製鉄におけるコンピュータ・ネットワークの概要を製鉄所レベル，全社レベル，企業間レベルで紹介した．最後に今後の課題としてネットワーク構築・運用の柔軟性の確保とネットワークのインテリジェント化の2点をあげた．

関口教授は，研究教育活動のために導入され，平成3年度に完成予定の北海道大学情報ネットワークシステム（ＨＩＮＥＳ）を紹介した．ＨＩＮＥＳは大学におけるインフラストラクチャであり，先端的で研究的なものである必要はないとの観点から考えられている．すなわちその多数のユーザーは情報処理の素人であり，その特性である使用頻度の低さ，マニュアルの読めなさ，コンピータの基本的常識の欠如，システムの欠陥に対する非妥協性などに対して特に考慮し，このシステムは構築されている．そしてこのようなシステムの使用状況をみると第1番目，第2番目の利用がともに法学部の先生である点からみても，当初の目的（研究教育への素人の利用）は達成されたと考えているとのことであった．

以上4氏が情報ネットワークに関連して理論的にまた現場サイド（製造業とサービス業の立場から）あるいは研究教育の立場からその実際例について紹介し，内容豊富であり，実りの多い時間を過ごすことができた．

最後に，小樽商科大学の若林信夫教授の結びの弁があり，そのなかでも情報ネットワークの応用の広さ，発展性が強調された．

（上野哲郎）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．